

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB(Seminar of Study B)	授業コード	C172582
担当教員名	濱田 大助	科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	1 基本的なPCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)と学内LANの利用(Webからの情報収集、メール等)ができること。 2 これまでの科目でわからない事柄がある場合は、必要に応じて早期に再学習することを薦めます。		
受講心得	卒業研究として希望する専門分野の担当教員クラスを履修することが望まれる。演習を伴う授業なので遅刻・欠席をすると授業についていけなくなります。		
教科書	大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康(著)、その他 都度指示		
参考文献及び指定図書			
関連科目	オフィスアワー		

授業の目的	<p>◆研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報システム構築・運用 UNIX系OSであるLINUXをベースに取り扱います。</li> <li>OSSによるサーバの研究</li> </ul> <p>ipodに代表される携帯型のミュージックプレーヤは、進化を続けており高性能・大容量となっています。これらミュージックプレーヤは、所有しているだけでは聞くためのコンテンツが沸いてくるわけではありません。オープンソースを活用して、FM/AMラジオを自動的に録音し活用するための仕組み(サーバ)を構築します。構築を行うには、様々なソフトを導入し、組み合わせる必要があります。また、希望する時間に自動で録音を行う仕組みを考えなければなりません。録音したデータは容量が大きいのでたくさんの番組を保存することはできません。さらにミュージックプレーヤなどは、特定の形式のファイルを読み込み音に変換しています。特定の形式に変換する仕組みも必要です。巷では、速聴と呼ばれる聞き方があるようです。普段よりも早いスピードで音声聞くことで様々な効果があるとされていますが、その速聴のためのデータも作成できるようになります。</p> <p>OSSでは、上記のような様々な問題を解決するためのソフトウェアが公開され、自由に使用できるようになっています。それらOSSを組み合わせることでサーバを構成し、ニュースなどを自動録音して就職活動に必要な時事の収集をしても良いかもしれません。実機や仮想マシンを用いてサーバを運用し、より実践的な演習や研究を行います。</p> <p>取り組みの後半では、各自個別・グループにてテーマを決定し短期間でそれらテーマの解決に向け研究を行います。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文の読み方・書き方</li> </ul> <p>教科書をよみ要点をまとめ学習を進めます。中盤以降、国立国会図書館のデータベースで論文を検索し、本学の図書館経由で論文の取り寄せを行い、レポート作成を行います。一連の作業を体験することで卒業研究の最中にトラブルが起きないように準備を行います。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 科目ガイダンス (記録用演習ノートの配布)	
第2週： OSSの体験(商用ソフトとOSSの違い)および調査	
第3週： サーバの説明(見学)調査	
第4週： 論文・レポートの書き方確認 (練習問題で国語辞典を使用します)	
第5週：	

サーバのインストールその他(vim,putty)		
<b>第6週:</b> サーバのインストールについて演習レポートの作成		
<b>第7週:</b> 問題解決のためのソフトの調査		
<b>第8週:</b> 問題解決のためのソフトを導入(調査含む)		
<b>第9週:</b> 問題解決のためのソフトを導入		
<b>第10週:</b> 自動化について(cron,at,mailなど)		
<b>第11週:</b> 問題解決のためのソフトの調査・導入についてのレポートの作成		
<b>第12週:</b> 次の問題解決のための調査		
<b>第13週:</b> 次の問題解決のためのソフトを導入(調査含む)		
<b>第14週:</b> 次の問題解決のためのソフトを導入(発表資料等の作成含む)		
<b>第15週:</b> サーバの構築についてのレポートと成果発表の為の資料作成・発表・LPIC関連の小テスト		
<b>第16週: 期末試験</b>		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
<b>備考</b>	ICT技術を用いて実施内容は記録をしていきます。欠席者に対するの振り返りは行いませんので主体的にカバーするようにしてください。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	演習に対する十分な取り組み
<b>【知識・理解】</b>	OSSの理解と使用。 レポートの書き方についての理解
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	自己の考えを表現するとともに、他人の理解を行う。適切な言動(声量・タイミング・言葉遣い)
<b>【思考・判断・創造】</b>	主体的な行動

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			25点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		15点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		15点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		15点	10点	
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	報告書が実施内容に即している 理解→不足が無い 表現→図・表が用いられる 思考→原因、応用、社会とのつながりが感じ取られる
発表・その他(無形成果)	意欲→課題・宿題への取り組み 知識・表現→報告書以外の発言や質問の応答 創造→トライ&エラーの実践